

2月22日に春一番が吹き、春のあたたかさを感じる日が多くなってきました。

先日は、3歳未満児クラスの生活発表会をご観覧くださり、誠にありがとうございました。日頃の園生活の中で取り組んできたことが十分発揮された発表会だったと思います。先日閉幕した冬期オリンピックに出場した選手のように、園児一人一人が輝いていました。保護者の皆様におかれましては、温かい応援をくださりありがとうございました。

さて、3月の大きな目当ては、「希望」です。園児たちは、もうすぐ訪れる就学や進級に向けて希望を抱く時期です。1年前に、この紙面で「戦争は、憎しみしか生みません。私たちの国がこの先もずっと戦争をしないためにも、大人の我々が不戦を訴え続けること、表明することが大事であるとおつくづ思います。」と訴えました。ロシアがウクライナへ侵攻を始めて早4年が経ち、なかなか終結の見えない戦争ですが、せめて戦争をしていない国としては、不戦を訴えつつ、子どもたち一人一人が多様な希望を抱けるように、最もよく生きることができる環境をつくり、園児と関わっていきたいと思います。



雪あそびをしました🌨️

2月8日、大分では久しぶりに雪が積りました。翌日になっても、米良ひろばにはたくさん雪が残っていたので、ここぞとばかりにあそびに行ってきました。

雪景色の美しさに感動した後、そのまま鑑賞を楽しむ子や雪の感触を楽しむ子、みんながあそぶ様子を楽しむ子など、いろいろな姿が見られました。どの場所の雪がきれいに取れるのか、どのようにすれば大きな玉ができるのか、どのくらいの大きさの雪玉だと早く効果的な投げやすいものができるのか、と、いろいろな不思議を感じ、科学的に考え、工夫してあそぶ姿が見られました。



“ゆきだるまだ～”



“いちばんさきにゆきだまつくるぞ～”



“そっちになげるよ”



“てがつめたくなった～”



こっそり大きくしています



“えんちょうせんせいいっぱいあたって”

<今後の予定>

- 3月 9～13日 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 3月13日(金) お別れ会(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 3月16～19日 身体計測週間(いちご・あんず・きういぐみ)
- 3月21日(土) 卒園式(、お弁当日)
- 3月25日(水) 誕生会
- 3月31日(火) 健康診断

<保育料の自動払込について>

先日お伝えしたとおり、保育料につきましては、令和8年度より、ゆうちょ銀行の自動払込を利用することといたしました。ただし、延長保育料については、現在のところ少額な方が多いので、これについてのみこれまでどおり職員室にて現金での収納とする予定です。納入の時期など詳細については、来年度お知らせいたします。



コラム 77：子どもが望む大人の世界⑤ ～17の子どもの願い～

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

——前回までに紙面の都合で紹介しきれなかった「⑩一人一人の違いに応じた対応をする」の項目以下の内容について、今回も順次紹介していきたいと思います。最初は、⑩番目になる「一人一人の違いに応じた対応をする」から始めていきたいと思います。——

⑩一人一人の違いに応じた対応をする

子どもを取り巻く現在の環境の中で、私たちは多忙化という大きな時代の渦の中で、日常生活の中に精神的なゆとりを失ってしまい、ゆっくりと子どもたちと向き合い見つめ合い丁寧に関わっていくことがとても難しくなっています。その結果、私たちは知らず知らずのうちに、本来もっている一人一人の子どもの違いを忘れてしまい、子どもたちを画一的に一括りにして同一視する傾向がでてきています。

そのような変化の中で、私たち大人が心がけていかなければいけないことは「一人一人の子どもたちを本当に大切にすること」です。そのためには、子どもたちは、本来、一人一人違うということをしっかりと胸に刻み、一人一人の違いに優劣をつけず、まず子どもの全てを受け入れていくことが大切になります。そして、どの子どもも心豊かに育っていくためには、子どもたちが今何を感じているのか、どのような経験が必要なのかということを広く受け止め続けていかなければならないのです。

兄弟姉妹であっても、一人一人の子どもはそれぞれ違った考えや感情を持っています。したがって、家庭生活の中では、本来子どもたち一人一人のもっている違いをよく理解し、それに応じた対応を行っていくために、まず一人一人の子どもの本当の気持ちを受け止め、興味や関心、個性を尊重しながら、それぞれの発達段階に応じた対応と働きかけを愛情深く行うようにしていきます。そして、個々の子どもが安心して生活できる環境を整え、個性や特性に応じた関わりを心がけるようにします。その次に、子どもたちのありのままの姿に関心を持ち、子どものもつ力を信頼するように努めます。

兄弟姉妹一人一人の違いを大切にすることは、それぞれ子どもたちが自分らしく生き、互いを尊重し合う社会を育む上でも大切になります。それぞれの子どもがもつ個性や強み・弱みを認め合うことで、家族の絆がいつそう深まり、より豊かな人間関係を築いていくことができるようになるのです。

幼児期というのは、人の生涯の中でも発育と発達に最も個人差が出てくる時期です。ですから、家庭環境や生活経験によって生育や発達の状態もそれぞれ異なってきます。そのために家族であっても、兄弟姉妹であっても、それぞれが異なった考えや思い、感情を持つようになることをコミュニケーションを通じて理解することが大切になります。このような中で、一人一人の子どもの違いに対応していくためには、それぞれの子どもの好きなことや得意なことを見出し、自己表現できる環境をつくり、それぞれの個性を尊重していくことが重要になります。また、「男の子だから」「女の子だから」「お兄ちゃんだから」「お姉ちゃんだから」「もう5歳になったのだから」「〇〇だから」といった子どもに対する固定観念を捨て、「みんな違ってみんないい」「ばらばらで一緒」という多様な価値観をもって人としてのあり方を考えることも大切になります。意見が異なる場合でも、「なぜそう考えるのか」ということに関心を持つことで人はそれぞれ違うという新たな発見を経験し、それぞれの違いを認識した上で互いを大切にしていけることの意味を学んでいくことができるのです。

ここまで考えてきたことを整理して「一人一人の違いに応じた接し方」を考えると、それぞれの子どもの個性や特性をよく理解し、自己肯定感を育むことがいかに大切かということがわかります。人それぞれ成長のペースや得意なことは異なります。他の子どもや兄弟姉妹と比べるのではなく、その子の良い点を見つけて認め、励ましていくことが重要なのです。そのためには、「結果だけを比べるのではなく、努力の過程を認めること」「他の子と違うことを不安に感じている場合は、その違いが強みになることを伝えること」「欠点や弱点を含めて、子どものありのままの姿を受け止めること」「一人の人間として尊く向き合うこと」を丁寧に行っていくことが大切になります。

一方で、子どもを他の子と比べると、子どもの自己肯定感を低下させる可能性があります。それぞれの家庭を「子どもが安心してありのままを受け入れられる場所」にすることが大切になるのです。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回には、⑫子どものしていることに驚きを持つ ⑬あるがままの姿を受け入れる ⑭明るくてほほ笑みの多い保護者になる ⑮ユーマアに富んだ保護者になる ⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑰人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。

